鈍走記（草稿）

竹内浩三

青空文庫

生まれてきたから、死ぬまで生きてやるのだ。ただそれだけだ。
日本語は正確に発音しよう。白ければシロイと。
ペリオド、カンマ、クエッションマアク。でも、妥協はいやだ！
小さい銅像がちょうちょうとあそんでいる。彼はこの漁業町の先覚者だった。
四角形、六角形、そのていたらくをみよ。
バクダンをもってあるいていた。生活を分数にしていた。
恥をかいて、その上ぬりまでしたら、かがやき出した。
私は、機関車の不器用な驀進ぶりが好きだ。
もし、軍人がゴウマンでなかったら、自殺する。
どんなきゅうくつなところでも、アグラはかける。石の上に三年坐ったやつもいる。
みんながみんな勝つことをのぞんだので、負けることが余りに余った。それをみんなひろいあつめたやつがいて、ツウテンジャックの計算のように、プラス・マイナスが逆になった。
戦争は悪の豪華版である。
戦争しなくとも、建設はできる。
飯屋のメニュウに「豚ハム」とある。うさぎの卵を注文してごらんなさい。
哲学は、論理の無用であることの証明にやくだつ。
女は、バカなやつで、自分と同じ程度の男しか理解できない。
しようとしない。
今は、詩人の出るマクではない。ただし、マスク・ドラマはそのかぎりにあらず。
注訳をしながら生きていたら、注訳すること自身が生活になった。曰く、小説家。
批評家に曰く、批評するヒマがあったら、創作してほしい。
子供は、注訳なしで、にくいものをにくみ、したいことをする。だから、すきだ。
ぼくはずるい男なので、だれからもずるい男だと言われないように、極力気をつかった。
ぼくは、おしゃれなので、いつもきたないキモノをきていた。
ぼくは、おしゃれなので、床屋がぼくの頭をリーゼントスタイルにしたとき、あわてた。
ぼくは、自分とそっくりな奴にあったことがない。もしいたら、決闘をする。
親馬鹿チャンリンは、助平な奴である。
ベートホベンがつんぼであったと言うことは、音痴がたくさんいることを意味するかしら。
ちかごろぼくの涙腺は、カランのやぶけた水道みたいである。ニュース映画を見ても、だだもり。
人生である。
このおれの右手をジャックナイフでなぶりころしにしてやる。おれは、ひいひいとなきわめいて、ネハンに入る。
どこへ行ってもにんげんがいて、おれを噛う。おれは、噛われるのはいやだけども、にんげんをすきだ。
人相学と映画学とは一脈相通じる。



青空文庫情報

底本：「竹内浩三全作品集　日本が見えない　全1巻」藤原書店
2001（平成13）年11月30日初版第1刷発行
2002（平成14）年8月30日初版第5刷発行
入力：坂本真一
校正：雪森
2014年11月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鈍走記（草稿）

竹内浩三

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/